

NEWS RELEASE

関西国際空港株式会社
経営戦略室広報グループ

TEL : 0724-55-2201

FAX : 0724-55-2052

2003 (平成15) 年 7 月 4 日

「航空機利用及び乗り継ぎ実態調査」の結果について

今回実施しました標記調査結果の概要を取りまとめましたので、別紙のとおりお知らせ致します。

今回の調査結果の要点は、以下のとおりです。

- (1) 関空発着の国内線をご利用のお客様のうち、国際線との乗り継ぎをされたお客様の割合は 15.0 % で、前回 (平成 10 年度) 調査の結果とほぼ同じとなりました。
- (2) 上述 (1) の際内乗り継ぎをされたお客様のうち、3 割強が東京 (羽田) 線のご利用となり、次いで福岡線及び四国各線となりました。
- (3) 際内乗り継ぎをされたお客様が利用される国際線の就航地域別割合をみると、およそ半数 (48.2 %) のお客様がアジア及び東南アジア諸国と関空を結ぶ国際線をご利用になっています。これは、関空の特徴であるアジア地域との結びつきの強さを裏付けています。
- (4) また、福岡路線と国際線との乗り継ぎをされたお客様の 6 割強が、ヨーロッパ及びオセアニア路線のご利用である一方、沖縄 (那覇) 線と国際線との乗り継ぎをされたお客様のおよそ 7 割がアメリカ路線をご利用になっているという特色が見られます。
- (5) 関空における際内乗り継ぎをされたお客様の待ち時間については、2 時間以下のお客様が半数近くを占める一方で、4 時間以上と回答されたお客様も 2 割前後見受けられました。今後、乗り継ぎ利便性向上のための航空ネットワークのさらなる拡充、及び待ち時間を有効に過ごしていただける環境づくりに努めて参ります。

お問い合わせ先
経営戦略室総合企画グループ
TEL : 0724-55-2113

1. 調査の概要

(1) 調査目的

関西国際空港における乗り継ぎ実態等の状況を把握するため、関西国際空港発着の特定の国内航空路線と国際航空路線の利用実態、及び待ち時間における関西国際空港等の施設利用実態を調査するものであり、今後の会社の経営計画策定のため、そしてより利用しやすくお客様にご満足いただける空港とするため施策推進の参考資料とする。

(2) 調査方法

- ・調査実施日：繁忙期・・・8月25日(日曜日・休日)、8月28日(水曜日・平日)
閑散期・・・11月13日(水曜日・平日)、11月17日(日曜日・休日)
- ・今回の調査においては、8月調査では、東京・福岡・札幌(新千歳)・沖縄(那覇)・松山・高知・高松・仙台の各路線を、11月調査では、東京・福岡・札幌(新千歳)・沖縄(那覇)・松山・高知・庄内・秋田・鹿児島路線を対象とした。
- ・出発旅客については、調査員が出発ゲート付近で調査票一式を手渡して協力を依頼し、後日郵送(はがき)か電子メールで回答をいただくが、その場で記入いただいたお客様からはその場で回収した。
- ・到着旅客については、調査員が到着ゲート付近で調査票一式を手渡して協力を依頼し、後日郵送(はがき)かメールで回答をいただいた。

(3) アンケートへの回答状況

アンケート回収数及び回収率は表1のとおりとなった。これらの結果、回収率は、8月で21.7%、11月で18.0%となり、8月・11月の合計では19.9%となった。

表1 アンケート配布・回収状況

	8月25日 休日(日曜)				8月28日 平日(水曜)			
	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
関空出発	4,080	1,945	1,812	44.4%	3,407	1,467	1,365	40.1%
関空到着	5,700	461	453	7.9%	5,443	420	413	7.6%
合計	9,780	2,406	2,265	23.2%	8,850	1,887	1,778	20.1%

(有効回答総計： 4,043 件)

	11月13日 平日(水曜)				11月17日 休日(日曜)			
	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
関空出発	3,319	1,429	1,131	34.1%	4,948	1,966	1,529	30.9%
関空到着	4,648	366	331	7.1%	5,859	423	397	6.8%
合計	7,967	1,795	1,462	18.4%	10,807	2,389	1,926	17.8%

(有効回答総計： 3,388 件)

	平日				休日			
	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
関空出発	6,726	2,896	2,496	37.1%	9,028	3,911	3,341	37.0%
関空到着	10,091	786	744	7.4%	11,559	884	850	7.4%
合計	16,817	3,682	3,240	19.3%	20,587	4,795	4,191	20.4%

(有効回答総計： 7,431 件)

2. 調査結果

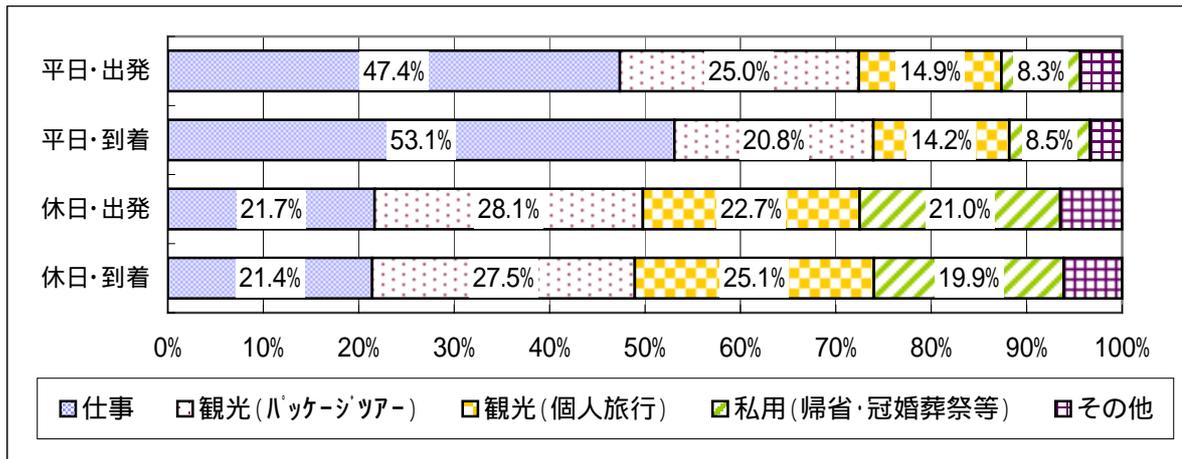
(1) 旅客属性(関空利用目的)による分析

国内線利用者の空港利用目的

調査当日に関空で国内線を利用した方の利用目的(8月・11月合計)は、図1のとおりとなった。平日においては、仕事目的のお客様がおよそ半数、観光目的のお客様が3割～4割を占めた一方、休日では5割のお客様が観光の目的でご利用いただいた。

前回調査(平成10年)との比較では、平日において仕事目的でご利用のお客様が20%～30%増加していることが注目される(前回調査では、仕事目的の利用は8月調査で約2割、11月調査で3割強)。

図1. 関空利用目的

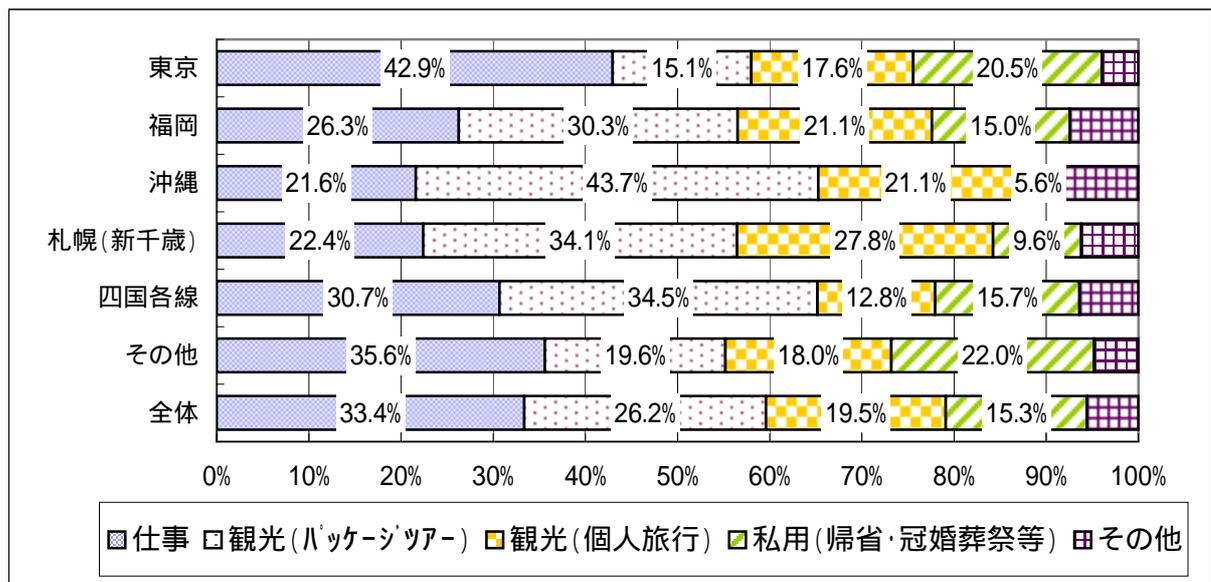


路線別旅行目的

で掲載した関空利用目的を国内路線毎に表すと、図2のとおりとなる(8月・11月調査の合計)。全体では、3人に1人のお客様が仕事目的で関空を利用されている。なかでも東京路線においては、仕事目的の利用が4割強を占めていることが注目される。

一方、東京以外の路線においては、観光目的でのご利用が40%～60%を占めていることがわかる。

図2. 路線別旅行目的



(注)「四国各線」は、8月は高松・松山・高知線、11月は松山・高知線を指す。

「その他」路線は、8月は仙台線、11月は秋田・庄内・鹿児島線を指す。

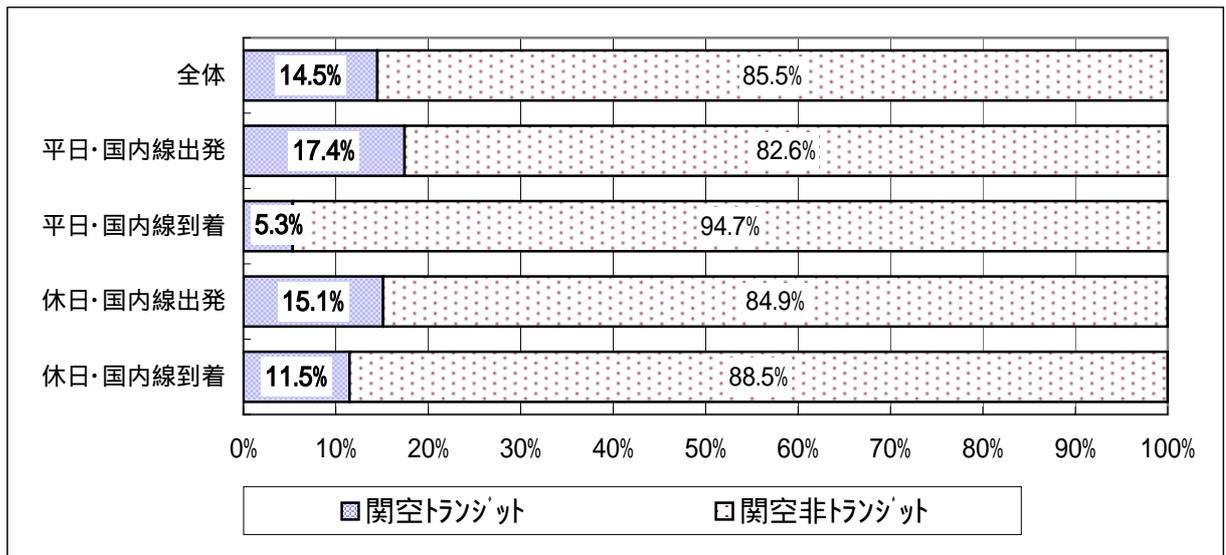
(2) 関空発着の国内線旅客に関する国際線との乗り継ぎ実態について(際内乗り継ぎ率)

関空の国内線旅客のうち、国際線との乗り継ぎ旅客の占める割合は図3のとおり、8月調査で14.5%、11月調査で15.6%であり、全体では15.0%(対前回調査比+1.0%)となった。11月調査時においては、8月調査時に比べ国内線便数は減少したものの、乗り継ぎ率に大きな変化はなく、引き続き関空の乗り継ぎ利便性が評価される結果となった。

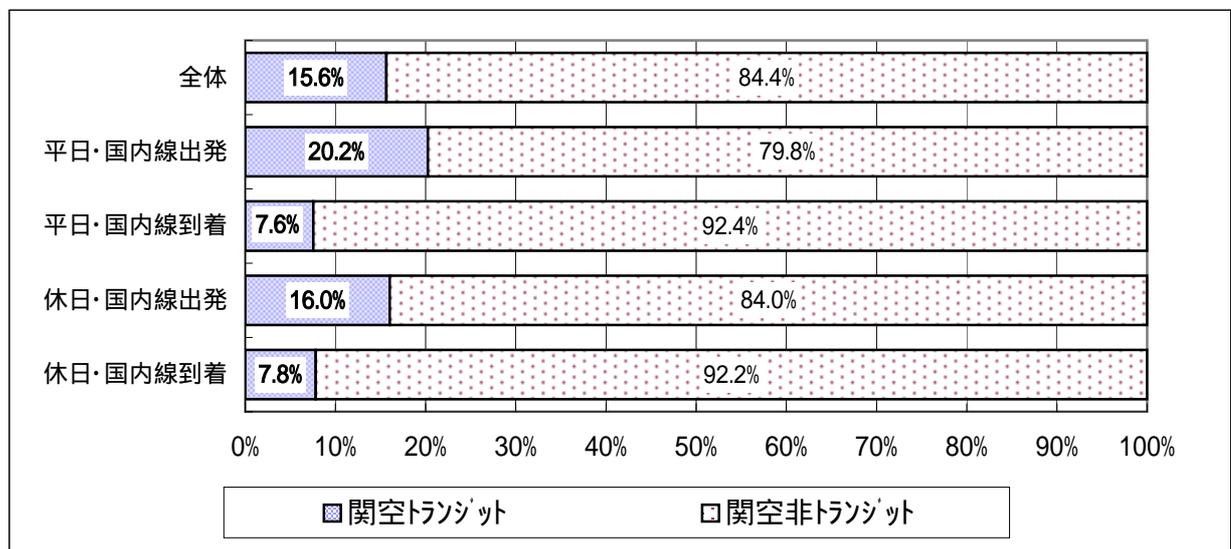
なお、それぞれの表において国内線到着分の乗り継ぎ率が低いのは、到着客からの回収率が低かったためと思われる。

図3. 際内乗り継ぎ率

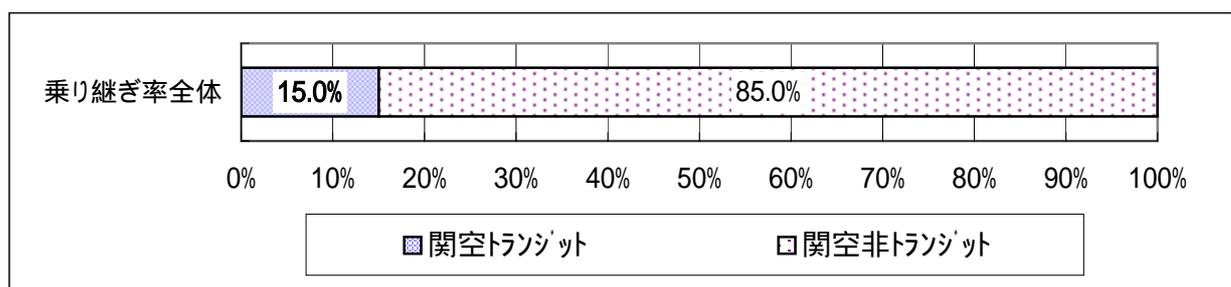
【8月調査】



【11月調査】



【8月・11月調査全体】

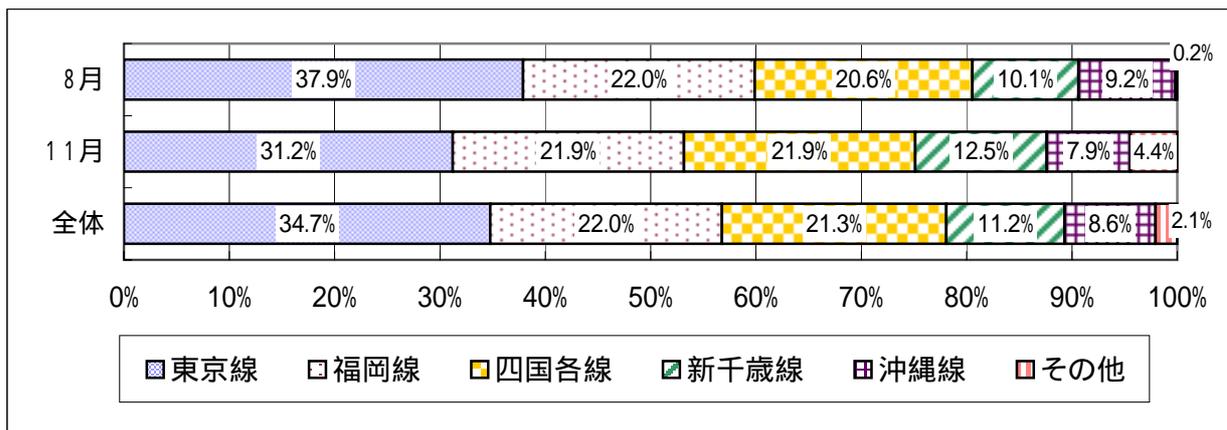


(3) 際内乗り継ぎ旅客の国内利用路線

関空で際内乗り継ぎをされるお客様が利用された国内線の利用路線別割合は、図4のとおりとなった。際内乗り継ぎのお客様のうち、約3分の1のお客様が東京(羽田)線をご利用になっており、以下福岡線、四国各線の順となっている。

前回(平成10年度調査)と比較して、福岡線をご利用のお客様の割合は、運航便数の減少に伴い減った一方(対前回調査比で、8月全体で-6.5%、11月全体で-4.1%)、四国各線・新千歳線等の割合が増加している(四国各線は対前回調査比で8月全体で+8.4%、11月全体で+7.0%、新千歳線は8月+4.1%、11月は前回調査と同じ)。

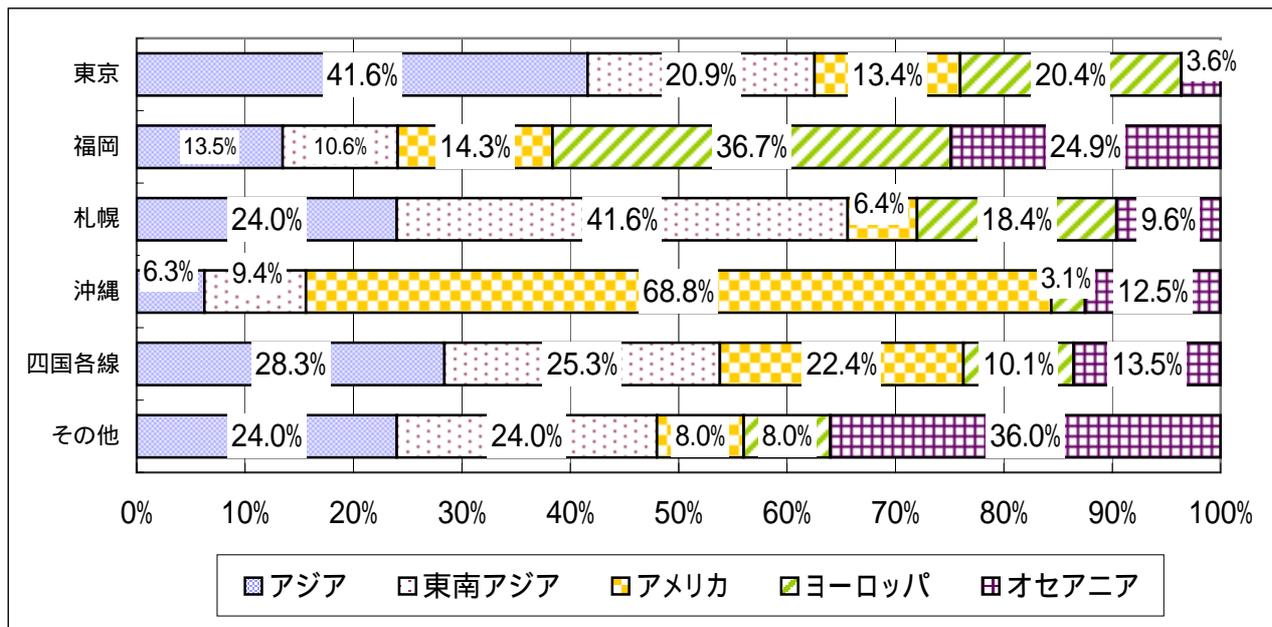
図4. 乗り継ぎ旅客の利用国内路線別割合



(4) 乗り継ぎ旅客の国際線利用路線

関空で際内乗り継ぎをされるお客様が利用された国際線の方面別割合は、図5のとおりとなった。注目される点は、福岡路線では欧米及びオセアニア地域との、また沖縄線では北米との際内乗り継ぎ割合が高い。これら以外の国内路線全体では、半数弱(45.8%)のお客様がアジア及び東南アジア諸国とを結ぶ国際路線との乗り継ぎであることから、関空のアジア方面への路線が多いという特徴が顕著に現れている。

図5. 乗り継ぎ旅客の利用国際線就航地域別割合



注) 海外地域の区分は以下のとおり。

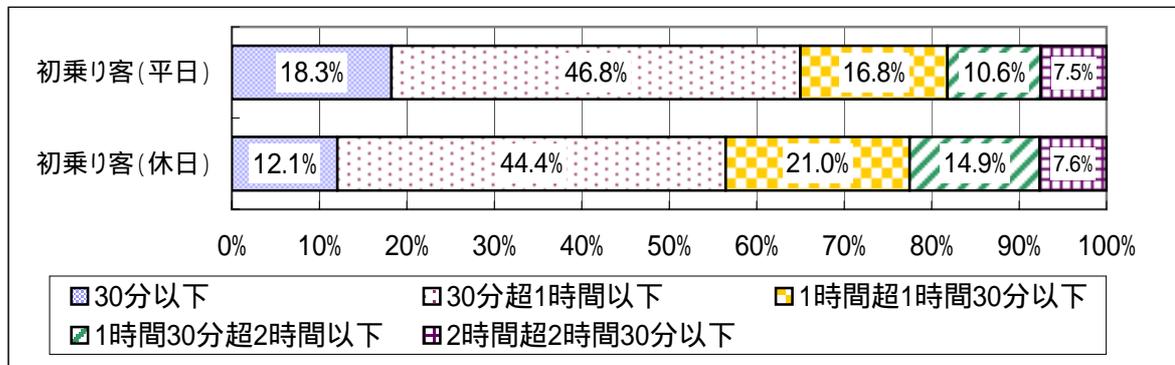
アジア	広州、大連、北京、上海浦東、青島、天津、香港、台北、瀋陽、廈門、成都、ソウル、プサン、済州、ムンバイ、 デリー、カトマンズ、タシケント
東南アジア	バンコク、ジャカルタ、デンパサール、マニラ、ホーチミン、シンガポール、クアラルンプール
アメリカ	デトロイト、グアム、ホノルル、ロサンゼルス、サンフランシスコ、サイパン、バンクーバー
ヨーロッパ	アムステルダム、カイロ、パリ、ドバイ、フランクフルト、イスタンブール、ロンドン、ミラノ、ウィーン、ウラジオストック
オセアニア	オークランド、ブリスベン、クライストチャーチ、ケアンズ、シドニー、ゴールドコースト、ヌーメア、パペーテ

(5) 待ち時間の分析について

待ち時間の長さについて

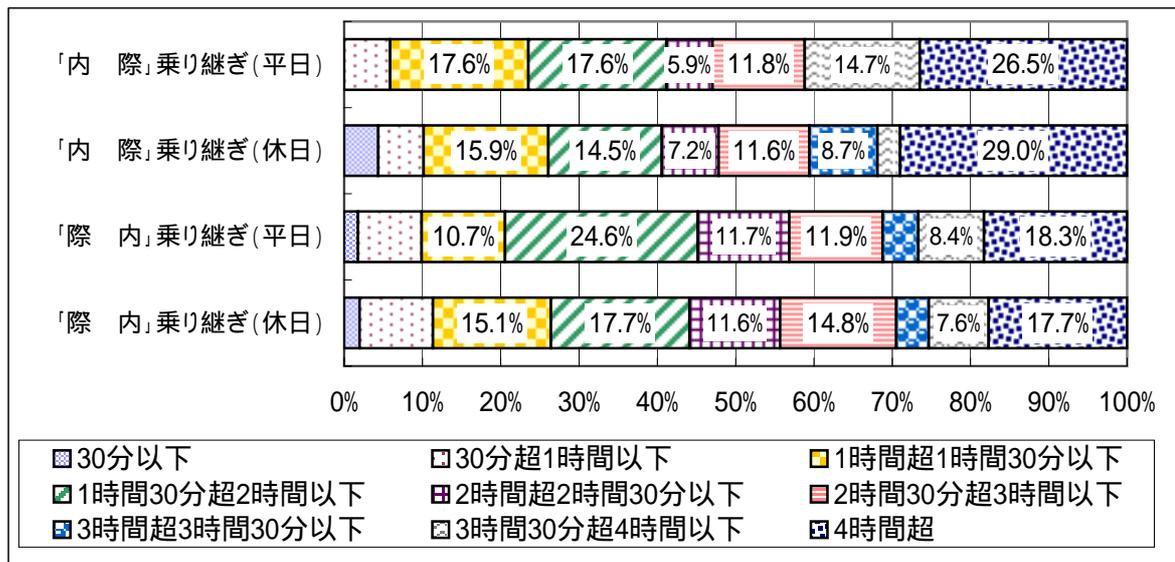
関空まで航空機以外でお越しになったお客様(つまり、飛行機「初乗り」)の方が、関空に到着されてから出発までの待ち時間は、図6のとおりとなった(8月・11月全体の結果)。国内線のみのご利用とあって、出発時刻迄の待ち時間が1時間前以下のお客様が、全体の6割近くに及んでいる。また平日と休日を比較した際に、平日の方が待ち時間が短い傾向にあるのは、仕事目的のお客様が多いためと考えられる。

図6. 待ち時間の長さ(初乗り)



一方、際内乗り継ぎのお客様の待ち時間は、図7のとおりとなった(8月・11月調査全体)。乗り継ぎ便の出発時刻に左右されることになるが、「1時間半から2時間」及び「4時間以上」と回答されたお客様が多く見受けられる。その他の待ち時間帯についても、乗り継ぎの種別や時期にかかわらず大きなばらつきがない。

図7. 待ち時間の長さ(乗り継ぎ旅客)



待ち時間を過ごす場所について

空港到着から出発までをどのように過ごされたかについてまとめた結果、表3のとおりとなった(8月・11月調査合計・複数回答につき、合計は100%にならない。)。およそ8割のお客様が旅客ターミナルビル内で待ち時間を過ごされている。一方、「内 際」乗り継ぎ旅客は、比較的待ち時間があると考えられ(平均待ち時間は、「際 内」乗り継ぎ旅客よりも長い< >)、エアロプラザに行かれる等の行動が見受けられる。

表3. 待ち時間を過ごす場所の割合

	旅客ターミナルビル内	エアロプラザ内	空港島外	その他
初乗り客(平日)	88.4%	15.9%	-	4.4%
初乗り客(休日)	89.6%	17.5%	-	3.0%
「際 内」乗り継ぎ(平日)	83.5%	16.5%	4.3%	6.0%
「際 内」乗り継ぎ(休日)	84.7%	18.7%	4.9%	3.4%
「内 際」乗り継ぎ(平日)	81.8%	20.5%	0.0%	13.6%
「内 際」乗り継ぎ(休日)	71.8%	21.8%	6.4%	19.2%

「その他」は、各種ラウンジ等を指す。

平均待ち時間は、以下のとおり。

	調査時期	平 / 休日	平均待ち時間
「際 内」乗り継ぎ	8月	平日	3時間6分
		休日	2時間55分
	11月	平日	3時間10分
		休日	2時間47分
「内 際」乗り継ぎ	8月	平日	3時間6分
		休日	3時間14分
	11月	平日	3時間12分
		休日	3時間49分

以上